

**長崎** 崎港から西へ約百キロメートル、五島列島の南西部、九州の最西端に位置する五島市は十一の有人島と五十二の無人島で構成されている。中でも最も大きな島が福江島。歴史をひもとけば、この地は遣唐使船の最終寄港地として大きな役割を担ってきた。それまで壱岐、対馬を経て中国に渡っていた遣唐使が六六三年の白村江の戦い以降、日本と新羅との関係が悪化すると、五島列島を経て東シナ海を渡る危険なルートを取らざるを得なくなったためだ。

こうした異国へとつながる海の道の最終中継地としての顔を持つ五島市は、二〇一五年、壱岐や対馬とともに「日本遺産」第一号に認定された。それに伴って「三井楽」「明星院本堂」「ともつな石」の三件が構成文化財として認定されている。

今回は遣唐使そして空海ゆかりの地として知られる「三井楽」を、ガイドの坂口美知子さんに案内していただいた。待ち合わせの「長崎鼻公園」で出迎えてくれた坂口さんは「この道は夕映えの路、またの名をオレンジロードといって、辞本涯の碑まで続いてゆきます。海風が気持ちよく、散策するにはピッタリの道なんですよ」と話す。

坂口さんは自然散策が専門だそうです。植物の名前も丁寧に説明してくれる。「これは『ハマヒサカキ』といって、海岸の近くでよく見られます。風が強いので上にはなく、水平に伸びていくんで

すよ。地元ではイソシバとも呼ばれています。」「このオレンジの花は『ノヒメユリ』。日本で一番小さなユリです。花びらがカーブしていますね。小さいので、蝶々に見つけてもらおうと自分をアピールしているのかもしれないよ」。夏の島を彩る可憐なノヒメユリは風に揺られて、散策する人たちの目を楽しませていた。

坂口美知子さん  
NPO法人アクロス五島所属。「ガイド歴は3年ですが、五島を愛する気持ちは誰にも負けません!」と話す、福江島生まれ、福江島育ちの女性。人との出会いを楽しみに日々、ガイド活動を続けている。



ふるさと再発見



島を楽しむ3つの旅

# 五島市

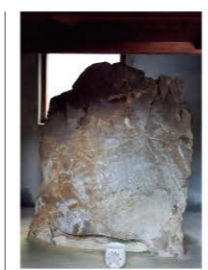


※/日本遺産  
地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形・無形の様々な文化財群を地域が主体となつて総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としている。五島市は「国境の島 壱岐・対馬 五島」古代からの架け橋」として認定された。

日本遺産 検索



明星院本堂(天井絵)  
【県有形文化財】



ともつな石  
【市史跡】

島を楽しむ  
3つの旅  
みみらくのしま  
三井楽コース  
日本遺産を  
めぐる旅  
1